

令和元年度
第3回基本評価等専門委員会
会議録

日時：令和元年（2019年）10月7日（月） 13:00～14:30
場所：道庁本庁舎 7階 共用A会議室

【出席者】

委員長	すずき みさこ 鈴木 美佐子	北海学園大学法学部教授
委員	うちだ けんえつ 内田 賢悦	北海道大学大学院工学研究院教授
委員	かさい さとみ 葛西 さとみ	行政書士カサイ・オフィス
委員	かねさか ゆみこ 金坂 由美子	税理士法人金坂会計事務所
委員	さいとう たくお 齊藤 拓男	(株)道新デジタルメディア メディアプランナー
委員	たけうち ひろお 竹内 弘雄	公認会計士竹内事務所
委員	たけおか あきこ 武岡 明子	札幌大学地域共創学群教授

【事務局(北海道)】

北海道総合政策部計画推進担当局長 谷内 浩史
計画推進課長 齋藤 幹夫

ほか

【令和元年度第3回基本評価等専門委員会】

1 開 会

2 議 事

- (1) 分かりやすい評価の見直し（案）について
（事務局より資料1、資料2-1、資料3に基づき説明）

《審議》

【葛西委員】

前回と比較するとビジュアル的に見やすく、分かりやすい内容になっているが、グラフには工夫が欲しい。

【鈴木委員長】

指標に応じて分かりやすい形をお願いします。

【竹内委員】

政策評価の発信力を高めるために、知事の記者会見などで政策評価についてのコメントをいただくことはできないのか。

【鈴木委員長】

知事からの発言が一番アピールができるのではないかと意見なので、検討をお願いします。

【事務局】

どのような方法が適しているか、様々な方法を検討する。

【武岡委員】

（仮称）総合計画評価レポートという名称だが、前回委員会から名称が変わったのか。

【事務局】

前回の名称が長すぎたので、ストレートなネーミングにした。今回も仮称だが、総合計画評価レポートに改称させていただいた。

【武岡委員】

資料2-1は見やすくなったが、道民向けの資料なので、小さい字で書いてあると興味を引くか疑問。また、総合計画の指標の説明は、もっとコンパクトにできるのではないか

【事務局】

文字の大きさやグラフの説明の件も含めて、改めて精査する。

【鈴木委員長】

総合計画評価レポートという名称については、改めて検討でよいか。

【事務局】

端的に表せる様な名称を検討する。

【齊藤委員】

資料2-2だが、冗長な文章を廃し、箇条書きにして、非常に読みやすくなっていると思う。ただ、箇条書きにすることによって、情報の漏れ等の可能性はないか。対応方法として、備考欄を設け、補足することはできないか。

【事務局】

検討する。

【金坂委員】

評価調書の「ACTION」部分が、次へのつながりが分かりづらいので、もう少し分かりやすくないか。

【事務局】

今回の評価の結果を踏まえて、今後、予算要求等を経て「ACTION」に反映させていく。現時点で翌年度に向けて、具体的なことを記載することは難しいが、PDCAサイクルの「CHECK」から「ACTION」へのつながりについて検討する。

【武岡委員】

資料2-2で新しい取組は、太字になったが、太字になっても何を強調しているのか分からないので、「新規」と書くか、括弧で「新規」や文末に「新規」をつけてはどうか。

【事務局】

表示方法については検討させていただく。

【武岡委員】

今年度の一次評価を見ても、年度の表し方が、「R」や「令和」、「元号」と「西暦」の併記があるので、統一すべき。

【事務局】

ルールについては細かく指定し、その上で担当者向けの説明会を行い、ルールを徹底していきたい。

【竹内委員】

二次評価は知事による評価になっているが、実際に知事がどこまで関わっているのか。

調書に知事自らが評価を付けてはどうか。現場の評価と、知事としての評価のギャップをどのように共有しているのか。道は組織として大きいので、どのようにギャップを埋めているのか気になった。

【事務局】

現場の評価である一次評価を踏まえて、緊急的、優先的に取り組む必要があるものなどに対して知事意見として二次評価意見を付すこととしている。

【鈴木委員長】

前回の委員会意見を反映していただき、ヒアリング内容も、盛り込んでいただけたと思う。今後、政策評価委員会での審議になるが、本日の意見も検討いただきたい。

(2) 令和元年度の基本評価（一次評価）について （資料4-1、4-2、4-3に基づき説明）

《審議》

【竹内委員】

資料4-1の2の二次政策評価の、「指標の改善」と「取組の改善」、「縮小」とかは、来年度に向けて改善するという意味か、改善できたという意味か。

【事務局】

次年度に向けて改善をするということ。改善の指標分析はCD指標があった場合に、次年度に向け「改善してください」という一次評価意見が付いている。

【鈴木委員長】

資料4-2で説明するとどうということか。

【事務局】

評価調書の例でいうと「妊娠・出産に関する相談件数」がD指標になっている。D指標になったものに対し、来年度に向けて対応方針を考えた事務事業に、「地域少子化対策強化事業費」等が選ばれ来年度に向けて方向性を付けている。

【葛西委員】

建設産業支援の取組促進の指標がBからDに下がり、更なる取組を行うとのことだが、時代の流れが速く、間違った判断をしてしまう可能性があるため、十年間の総合計画で同じ指標を追いかけるのは無理があるのではないか。

【鈴木委員長】

指標については、来年見直すという話を聞いているが。

【事務局】

政策評価における指標については来年度検討を行う。

【鈴木委員長】

目標値の設定の仕方が、よく分からないところがある。

【事務局】

ご指摘のとおりなので、指標の説明欄でしっかりと記載する。

【鈴木委員長】

道民が見て、なぜ指標の目標が10%なのかと思ったときに、どのように説明をするのか。

指標の目標値の理由を質問すると総合計画の指標を使っているという答えをいただくが、設定

の根拠がよく分からない。

【事務局】

指標の持つ意味とか、その目標値の設定の意味とかを記載することを検討する。

【齊藤委員】

4年間の成果指標のA B C Dの割合が大体一定となっている。民間企業であればDはなくすように改善する。指標のあり方に関係してくるが、正直どのように評価して良いか、不思議に思っている。道民が見たときに内情を知らないと何も改善されてないと誤解を招きかねない。そのため、どこかで指標の見直しを図るべきと感じる。

【事務局】

傾向として、Dが増えているように見えるが、実際には基準の見直しがある。例えば国の目標値が変わった、道の目標値がもっと高くなったという理由で、現状が追いついてないこともある。また、今まではAだったのを、目標値を引き上げたことにより、Dに落ちたものもある。集計だけを見ると努力していないと見え、その説明を書かないと誤解を与えることになる。正確に伝えるために、目標値を引き上げたことによりDに落ちたなどを記載できるかどうか整理する。

【葛西委員】

100%絶対達成しなければならない目標と、100%を目指す、努力すべきという目標と2タイプに分かれると思う。

人の命に係わる緊急を要するものは100%でなければならないと思うが、長い時間軸の中で、目指すものもあり、今年は80%、来年は90%というような政策もあると思う。そのため、何パターンかに分かれても良いのではないかな。

【事務局】

指標の達成度合いはいくつかの意味合いがあり、建物の耐震化率を100%にするというものもあれば、総合計画が始まった平成28年から今年度までの途中の進捗率を出しているものもある。数値としての100%と、途中の進捗率に対する達成率の100%を使い分けている部分があり、いくつかの達成度合いが混在しているので分かりづらい部分がある。指標の計算は一覧表を見れば分かるが、詳しくは書いていないので、指標の説明について検討する。

【内田委員】

同じ話題だが、「妊娠・出産に関する相談件数」の指標は、相談件数が多ければ良いということか。相談件数が多いところが出生率は高いというデータがあるのか。

【事務局】

北海道創生総合戦略に基づき目標件数が多い方が良いという目標を使っているのだが、サポートセンターの利用率を増やしていくということ。

【内田委員】

満足していたらあまり相談にいかないと思うのだが、大学だと学生の相談件数が少ない方が満足度が高いとしていることもある。

【鈴木委員長】

一方で、当校だと件数が増えることは、相談しやすくなったという見方もあるので判断が難しいところがある。

【事務局】

この指標は、相談したいのになかなか相談できず、抱え込んでいるというようなニーズが潜在的にあるのではないかとの分析のもと、サポートセンターのような機能を使い相談に行きやすくする環境整備をするという指標で、件数を目標にしている。これは一つの政策の実現という意味があることと考えているが、いろいろな見方ができるので難しいところもある指標だと思う。

【鈴木委員長】

今日いただいたご意見やご質問は次回の委員会までにご検討いただき、委員の皆様にご相談すべきことがあれば相談し整理して、何かあれば、委員長にご一任いただき、進めて行きたいと思う。